

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 3 区分
 【発行日】平成 23 年 5 月 12 日 (2011.5.12)

【公表番号】特表 2003-534931 (P2003-534931A)
 【公表日】平成 15 年 11 月 25 日 (2003.11.25)
 【出願番号】特願 2001-587977 (P2001-587977)
 【国際特許分類】

B 2 6 D 3/28 (2006.01)

【F I】

B 2 6 D 3/28 6 1 0 F

B 2 6 D 3/28 6 1 0 K

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 23 年 3 月 25 日 (2011.3.25)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】特許請求の範囲
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

食品をスライスする装置であって、切断刃（４）を含み、前記切断刃は回転する態様で駆動されることと軌道周回態様で円運動を行うこととのうちの少なくとも１つを行い、その切断面は食品供給装置（１）の食品支持面（２）に垂直に延在し、前記切断刃側の前記食品支持面（２）の端部が切断端部（３）によって画定され、前記切断端部（３）は、前記切断刃（４）と共に切断ギャップを形成し、

前記切断端部（３）は前記切断面に垂直に移動可能に支持されて接合部（６）に対して付勢され、

前記切断端部（３）は当該付勢力に抗して各刃の進路で前記切断刃（４）と少なくとも接して前記切断端部（３）は前記付勢力に抗して前記切断面に垂直に移動されるように、前記接合部（６）が位置しかつ前記切断端部（３）が構成されている、

ことを特徴とする装置。

【請求項 2】

各刃の進路で生ずる前記切断端部（３）の前記切断面に垂直な移動が 10 分の 2 ミリメートルから 10 分の 3 ミリメートルの範囲にあることを特徴とする請求項 1 記載の装置。

【請求項 3】

前記切断端部（３）が、ばね要素（５）でできている少なくとも 1 つの弾力性を有する要素によって付勢力下に置かれることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の装置。

【請求項 4】

前記切断端部が前記切断刃の差し込み領域において少なくとも 1 つのガイド面（８）を有し、前記ガイド面（８）の最上部が前記切断端部（３）の前面对して引っ込められるよう前記ガイド面（８）が傾いていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 つに記載の装置。

【請求項 5】

前記切断端部（３）がプラスチックまたはスチール素材でできていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 つに記載の装置。

【請求項 6】

前記切断端部（３）は前記食品供給装置（１）のガイド面（７）によって移動可能に支持されていて、前記切断端部（３）が前記ガイド面（７）上に 2 ～ 3 mm の範囲で軌道を

有することを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 つに記載の装置。

【請求項 7】

食品をスライスする装置であって、切断刃(4)を含み、前記切断刃は回転する態様で駆動されることと軌道周回態様で円運動を行うこととのうちの少なくとも 1 つを行い、切断面が食品供給装置(1)の食品支持面(2)に垂直に延在し、前記切断刃側の食品支持面(2)の端部が切断端部(3)によって画定され、前記切断端部(3)は、前記切断刃(4)と共に切断ギャップを形成し、

前記切断端部(3)が前記切断面に垂直に移動可能に支持されており、前記切断刃の前記移動及び寸法的特点のうちの少なくとも 1 つに基づいて制御される能動的に作動する装置に接続されて、各刃の進路で、前記切断刃と前記切断端部とが、サイズを前もって設定できる切断ギャップを形成することを特徴とする装置。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

本発明に基づき、この目的を、切断端部が切断面に垂直に移動可能に支持されて接合部に弾性的に付勢され、かつ、切断端部が当該付勢力の反対側の各刃の進路で少なくとも刃に接し、特に付勢力に抗して(または反対に)わずかにそれるように、接合部が配され切断端部がなされることで満足させる。

切断端部は、切断刃と共に切断ギャップを形成し、本設計によると、その基本位置から必要最低限量だけ移動される。この移動の大きさは 10 分の 2 ミリメートルから 10 分の 3 ミリメートルの範囲内である。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

接合部 6 で切断面の方向における切断端部 3 の可動性が留められて、切断端部 3 が最大で 10 分の 2 ミリメートルから 10 分の 3 ミリメートルだけ切断刃 4 の切断軌道上に飛び出し得ることが保証される。切断端部 3 は切断面の方向に付勢されていて、実際少なくとも 1 つのスプリング要素 5 によるものである。

切断端部 3 が、各切断、即ち切断刃 4 との各連携でスプリングの付勢力に抗してわずかに移動され得るということを保証するために、切断端部 3 はわずかに傾いたガイド面 8 とナイフの差込み領域で適合する。実際、わずかに傾いた、短いガイド面 8 は、最上層点が例えば約 1 mm まで切断端部の前面に対して引っ込められ、その後垂直方向へ 1 つになる。